

授業科目	言葉指導法	1単位	選択	演習	1学年後期	担当教員	准教授 中川 武					
授業の概要	①領域「言葉」のねらいと内容について、事例をもとに理解する。 ②子どもの言葉の発達過程を、理論的かつ実践的に理解する。 ③子どもの言葉の発達を促すために、保育者として必要なスキルについて理解し、適切な環境構成とはどのようなものかを実践的に学ぶ。 ④子どもの豊かな言葉の発達を可能にするために、保育現場が抱える現代的課題を理解し、保育構想の改善に繋がられるようにする。											
到達目標				学習成果Ⅰ		学習成果Ⅱ		学習成果Ⅲ				
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1. 領域「言葉」について、教科書やICT等の事例をもとに、乳幼児期からのことばの発達過程を踏まえ、言葉の発達における幼児の体験の重要性を理解する。				◎	◎	○	◎		◎	○	◎	◎
2. 言葉の発達を促すために保育者が果たすべき役割について、具体的な保育場面を想定し、模擬保育によって実践的に学ぶ。				◎			◎		◎		◎	◎
3. 指導案の作成上の留意点を理解し、指導案に基づく模擬保育とその後の振り返りにより、保育内容の改善が図れるようにする。				◎	○		◎		◎	○	◎	◎
4. 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や幼児教育におけるICTを活用した教材の活用事例等を学び、保育者としての指導の専門性向上を目指す。中心にして、講義・映像視聴・ワークショップ・ディスカッション・ロールプレイングなどにより、領域「言葉」について理論的・実践的に学ぶ。				◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照												
	主 題	準備学習	本時の学習内容と到達目標				復 習					
1	領域「言葉」とは何か（ことばを豊かに育てることとは）	シラバスおよび巻末の幼稚園教育要領、保育所保育指針 他を読んでおく。	授業の進め方や評価の方法を理解する。領域「言葉」とは何か、授業全体を通して何を学ぶかを概観する。				本時の学習内容のうち大事な点を、授業プリントを基にまとめておく。					
2	幼児教育の基本—保育者の様々な役割—	第1章を読み、授業内容の概要を理解しておく。	幼児期にふさわしい教育とはなにかについて考えるために、「環境を通じた教育」をテーマにつき考察する。 演習：課題ファイルに取り組む。				本時の学習内容に関する理解を深めておく。					
3	乳幼児の発達と領域「言葉」—乳幼児期のことばの発達過程—	第2章を読み、授業内容の概要を理解しておく。	乳幼児期から幼児期までの発生からことばのやり取りが可能となるまでの発達過程を理解する。 演習：課題ファイルに取り組む。				第2章の学習内容について、教科書で再確認しておく。					
4	信頼関係から生み出されることば（1）	第3章前半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	講座3の学習内容を確認し、ことばが生み出されていく道筋とその時の保育者の役割について学ぶ。 演習：課題ファイルに取り組む。				本時の学習内容の要点の理解を深め、疑問点を明確にしておく。					
5	信頼関係から生み出されることば（2）—アタッチメントと発達の最近接領域—	第3章後半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	ことばの発達における実感を伴った体験を積み重ねることの意義と保育者の関わり 演習：課題ファイルに取り組む。				第3章について「まとめ」部分の要約を行っておく。					
6	自分の考えや思いを伝えることば（1）—保育者の役割—	第4章前半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	自分とは異なる他の人の意見や考えに気づき始めた子どもたちと、保育者はどう接するか 演習：課題ファイルに取り組む。				本時の学習内容に関する理解を深めておく。					
7	自分の考えや思いを伝えることば（2）—ことばの持つ可能性—	第4章後半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	相手の思いに考慮しながら自分の思いを伝えるためのことばの指導 アイデンティティの確立と保育者の役割及び二次的言葉の獲得の必要性について理解を深める。 演習：課題ファイルに取り組む。				第4章について「まとめ」部分の要約を行っておく。					
8	感情体験とことば（1）—感情体験と保育者の役割—	第5章前半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	集団における多様な感情体験の場を保障する意義と、保育者は感情表現のモデルであることについて理解する。 演習：課題ファイルに取り組む。				本時の学習内容に関する理解を深めておく。					
9	感情体験とことば（2）—多様な感情体験と保育者の対応—	第5章後半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	仲間と意見を調整しながら話し合う場面での保育者の関わり方について理解する。 演習：課題ファイルに取り組む。				第5章について「まとめ」部分の要約を行っておく。					
10	文字との出会い—「一次のことばと二次のことば—	第6章前半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	話しことばと書きことばの特徴を理解し、子どもの発達状況を踏まえた文字の導入方法と留意点について学ぶ。 演習：課題ファイルに取り組む。				本時の学習内容に関する理解を深めておく。					

1 1	文字との出会い ―書きことばの習得と興味・関心を育むための環境構成―	第 6 章後半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	文字習得における基盤の存在を理解し、子どもの興味関心を育むための保育者の役割を理解する。 演習：課題ファイルに取り組む。	第 6 章について「まとめ」部分の要約を行っておく。
1 2	ごっこ遊びとことば ―ごっこ遊びとことばの役割―	第 7 章前半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	ごっこ遊びの意義と、ことばがごっこ遊び成立のために不可欠な理由について理解する。 演習：課題ファイルに取り組む。	本時の学習内容に関する理解を深めておく。
1 3	幼児教育の現代的課題と領域「言葉」(1) ―幼児教育が抱える現代的な課題―	第 7 章後半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	子どもとメディアの関わりを概観し、保育者や大人が果たすべき役割・配慮を確認する。 子どものことばの発達にとって、様々なメディアの活用方とその留意点について考察する。 演習：課題ファイルに取り組む。	第 7 章について「まとめ」部分の要約を行っておく。
1 4	幼児教育の現代的課題と領域「言葉」(2) ―ねらいと評価―	第 8 章前半を読み、授業内容の概要を理解しておく。	領域「言葉」が目指すものと発達の様子の評価としての記録の分析と省察の大切さを理解する 演習：課題ファイルに取り組む。	本時の学習内容に関する理解を深めておく。
1 5	まとめ ―保育の専門性とは何か―	第 8 章後半を読み、授業内容の概要を理解しておく。 巻末「幼稚園教育要領 保育所保育指針 他」の領域「言葉」を読んでおく。	平成 29 年告示の「『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』の領域「言葉」を中軸にし、「絵本の読み聞かせ」と「紙芝居の読み演じ」の指導案を作成する。 演習：課題ファイルに取り組む。	これまでの授業について、授業プリントと教科書を基にまとめを行っておく。
成績 評価	授業への興味・関心・態度 (30%) 課題提出 (30%) 期末試験 (40%) 合計 100%			
教員 からの コメント	<p>① 領域「言葉」の設定目的を理解し、保育者として子どものことばを豊かに育んでいく上で、どのような専門性が必要かについて考えていきます。</p> <p>② 保育現場が抱える現代的課題を理解し、みなさんが保育者になったとき、子どもたちや保護者とどのように関わるかについて、常にイメージしながら授業に参加してください。</p> <p>③ 児童文学（前期）に準じて、プリント課題を中心に進めます。解答合わせ・解説を通して理解を深めましょう。</p>			
教科書	書名 事例で学ぶ保育内容 領域 言葉 著者 無藤 隆 監修、高濱 裕子 編集代表 発行所 萌文書林	推薦 図書	書名 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』／発行所 チャイルド社 「幼稚園教育要領ハンドブック 2017 年告示版」 Gakken	